



EBPMと統計利用の課題

——生活扶助相当CPIの経済学的検証——

著者 鈴木雄大

判型 A5 判

ページ数 292

発行日 2025年12月25日

ISBN 978-4-910236-15-5 C3033

定価 4,950円（本体4,500円+税）

【内容紹介】

EBPM は統計が実態を正確に捉えてこそ 生活保護基準を引下げた国の主張を 物価指数と経済学的観点から徹底検証

物価が下落すれば、同じ金額で購入できるものが増える=実質的に使える金額が増える——2013年から行われた生活保護基準の引下げは、この「実質的に増えた」部分を削減するという「デフレ調整」が最大の根拠とされた。

この主張は、その物価の下落が学術的観点から見ても正しく測定できていることが確認できて、初めて正当なものとなる。国が算出した物価下落率——その根拠とされた「生活扶助相当CPI」が学術的観点から正当な根拠となり得るのか。本書では、生活扶助相当CPIとこれを用いたデフレ調整について、物価指数論の観点および経済学的観点から、その問題点を理論的・実証的に明らかにする。

【著者紹介】

鈴木 雄大（すずき たかひろ）

千葉県いすみ市出身。専門は経済統計学。2011年立教大学経済学部経済政策学科卒業。2012年立教大学大学院経済学研究科博士課程前期課程修了。2015年立教大学大学院経済学研究科博士課程後期課程単位取得退学、立教大学社会情報教育研究センター学術調査員。2016年立教大学経済学部助教、博士（経済学、立教大学）取得。2018年北海学園大学経済学部講師。2021年北海学園大学経済学部准教授、現在に至る。著書に『消費者物価指数の課題と方法—物価変動・生計費変動とその利用—』（創成社、2018年）など。